

2005.10.15

No.44



やませみ

てんらんざん 天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

大切なものは
包んで渡すでしょ
大切な言葉も
ていねいに包んで
渡すと届くんだそうです
包みすぎるとゴミが
出るから気をつける
ていねいに山に包まれる
私たちも大切な
ヒトたち

- 全体集会の報告／丸山隆
- 公聴会で公述しました／浅野正敏
- 「ドングリを拾いに行こう」
文：大石章・絵：黒住浩次
- 俳句でハイク／林伸子
- ほとけドジョウの里だより／早瀬成憲
- 日曜日ふる里散歩のおしらせ
- 編集後記



今、天覧山・多峯主山一帯の立体模型を作っている。この一帯は、心安らぎ感動を与えてくれる場所だが、これからの感動を与えてくれる山として、どう私達が関わっていくか、専門家に学び、大いに語り、思いを共有する為の視覚的な道具となるよう作っている。山を歩き、感覚的に感じていることと実際では、地形、方角、距離など思い違いをしていることに驚く。全体の中の山道、沢の流れ、水源、地形など正確に見るにより、話し合いが現地に即したものとなり、これからの計画が前に進むことを願っている。

守る会会員 紙田義信

FROM EDITORS

編集室から



ご一緒しませんか？
日曜日ふる里散歩

当会では天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふるさと散歩」を開催しています。お気軽にご参加ください。

◆十一月十三日(日)

「むかごご飯」の巻

◆十二月十一日(日)

「里山のメリークリスマス」の巻

昼食後、クリスマスリース作りを行います。

いずれも左記のとおりです。

※集合＝能仁寺山門前 午前九時半

※持ち物＝お弁当 飲み物

◆一月一日(日)

「初日に祈る山歩き」の巻

※集合＝能仁寺山門前 午前六時半

*

※各回とも参加費は保険料百円。動きやすい服装でご参加ください。

共催／はんのう景観トラスト、(財)埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部

※詳しくは事務局にお尋ねください。



会員募集中！

1995年2月、西武鉄道による巨大団地開発の計画がきっかけとなり「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

◆年会費

一般会員……………2000円

ファミリー会員…3000円

協力会員……………10000円

◆会費・カンパ送り先

郵便振替口座

天覧山・多峯主山の自然を守る会

00580・9・16342

やませみ44号

2005年10月15日発行

●編集・発行

天覧山・多峯主山の自然を守る会

●事務局(浅野正敏)

042(974)1691

埼玉県飯能市柳町18-17

●申し込み用紙や機関誌「やま

せみ」は左記にあります。

○谷口眼科 ○銀河堂

「やませみ」へのご意見をお寄せください。投稿もお待ちしております。
URL=<http://tenranzan.room.ne.jp> E-mail=tenranzan@room.ne.jp



を全体集木会で話し合いました。

「天覧山・多峯主山のこれから」

武蔵丘分譲地の開発及び道路建設計画の中止により、当面の間、天覧山・多峯主山周辺の自然環境を壊滅的に損なう形の開発はなくなりました。

しかし、守る会では、この結果に満足することなく、



天覧山・多峯主山周辺の自然を恒久的に守っていくための方法の一つとして、今後の当地における保全活動の方針を話し合うための全体集木会を、9月23日美杉台公民館において開催しました。2時間強という短い時間でしたが、

会の会合は初めてという会員も含めて

たくさんの方々にお集まりいただき、活発な意見交換が行われ、

開発計画中止後も変わらない関心の高さを感じました。

当地は、谷津田の耕作や薪炭林として、

人の利用によって形成されていったいわゆる「里山」で、放置されて何十年も経過したことにより場所によっては荒れた箇所が多いのですが、特に近年ホタルが飛び交う時期に人が集まる天覧入りの湿地の保全活動に関しては、たくさん

の意見が出ました。その中でも、皆さんの意見が反映されていると思われるものを以下に挙げておきます。これらの意見を参考に今後の会の活動方針を立てていきたいと思っています。

●天覧入りの休耕田に沿って続く道が途切れるまで歩いてみたが、乾燥化がかなり進み、近年ホタルが減ったというのは、これが原因なのではないか。

●田圃を再生すればホタルの数は増えるのではないか。

●ホタルが補食するカワニナもかなり少ないと思った。研究して、その原因を探らなければならない。

●3年前にはホタルが多かった。人の手を入れるのも人力であるならば、失敗しても自然を再生することは可能だと思う。

●田圃に手が入らず放置されることによって、そこで生息する動植物が少なくなっている、何か手を入れる必要を感じている。

●山は確かに荒れてきている。間伐等を行い、間伐材で割り箸などを作ったらどうか。

●間伐をし、遠足に来ても気分のいい山

にしたい。宮沢湖と天覧山・多峯主山と市内を繋げて何かができないかと模索している。

●手入れの行き届いた山は気持ちがいい。ゾーンを決めて手を入れることはできるのではないか。

●山を歩いていてゴミの多さが気にかかる。最低のルールは必要で、市の協力で回収作業などをした方がいいと思う。

●雨乞いの池に鯉が放り込まれているが、鯉に餌をやる事を楽しみにしている人達もいて、市がそうした行為を駄目だといわないと効果がないだろう。

●野鳥のたくさん来る山を目指したい。

●いくら保全のための活動をしたいくても、土地所有者の了承を得なければ先に進まない。

●どのような方針であろうと、活動をしていることを世間に周知させるよう努力しないと、この地で営利事業の声が上がったら何もならなくなる。

●エコツーリズムの一環として試しに保全活動を行うことが今やることではないか。

●当会で行った調査報告書の結果をふまえて専門家の意見も聞く必要がある。NPOなど法人組織によってルールやガイドラインを作り、専門ガイドを育成できると良いと思う。

●将来の子供達が自然や環境を勉強しながら守るとい活動もNPOで行ってもらいたい。

守る会会員 丸山隆



8/23
都市計画変更の
公聴会で公述
しました。

今回の都市計画の公聴会は、今年1月の西武鉄道からの申し出を踏まえ、武蔵丘分譲地計画を中止するとともに、その区域を市街化区域から市街化調整区域に戻すという都市計画変更の手続きの一環として開催されたものです。変更内容そのものは、「天覧山・多峯主山の自然を守る会」として訴え続けて来たことでしたから、諸手を上げて賛成でした。市では、異論等意見がなければ公聴会は開催せずに手続きを進行させるとのことでしたが、法律に則ったせっかくの意見提出の場なので、保全を一步でも前に進めるものとして、次のような意見(概略)を公述人として述べました。

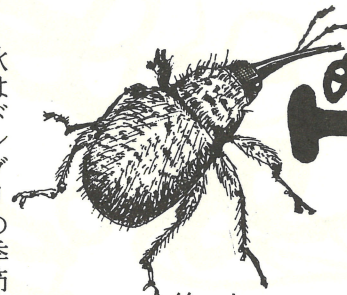
「武蔵丘地域73haのうち、西武線鉄道より西側の地域(通称、西地区)は、天覧山・多峯主山と一体となった、歴史・文化そして豊かな自然環境を持つ飯能市のシンボル地として、また市街地と接する貴重な里山景観として重要な位置づけにある。従って、この地域一帯の保全を確実にしてゆくにため今後、土地所有者と協議を進め、特別緑地保全地区指定のようなより保全を図ることのできる地域指定を要望する。

なお、持続可能な緑地の保全方法としては、特別緑地保全地区以外にも、市民緑地の指定や県立自然公園特別地区等々、他にも様々な制度があるので、市民、行政、土地所有者の協議を行いながら、最善の方法がとられてゆくことを望む。」

この日の公述人は私一人でしたが、貴重な意見として公に記録されました。

守る会 浅野正敏

ドングリを拾いに行こう!!



文：大石 章
絵：黒住浩次

秋はドングリの季節です。でも、ドングリ（団栗）ってそもそも何でしょう。厳密な定義はありませんが、広くはブナ科の樹木の実のことを言います。天覧山・多摩主山周辺には、コナラ、クヌギ、アラカシ、シラカシ、スダジイ、ツクバネガシ、マテバシイといったドングリのなる木があり、木の根元にはドングリがたくさん転がっています。ドングリは、発芽のための栄養がたっぷり入った種ですから、ムササビ、リスのほか野鳥から昆虫まで多くの動物たちを養う食料庫でもあり、コナラなどの雑木林が豊かな生態系を保っている一つの理由がここににあります。

皆さんのドングリの思い出にはどんなものがありますか？ 楊子を刺してコマにして遊んだり、パチンコの弾にしてぶついたり、引き出しにしまっておいたら虫が湧いてきませんでした？ 「子どもの頃はおやつ代わりだったよー」とは九州生まれのHさん。縄文人にとっては重要な食料で、ご先祖様の遺傳的記憶のせいか、ドングリには私たちを惹きつけるものがあるように感じます。久々、ドングリでも拾いに山に出かけてみませんか。

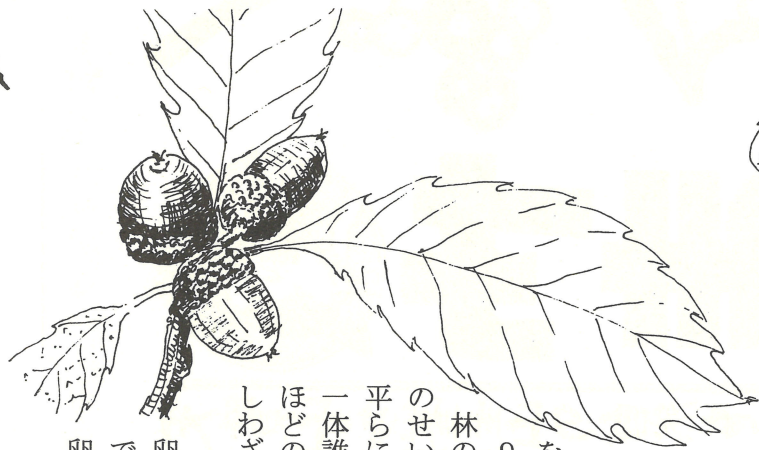


コナラ

この辺りに一番多い木の一つですから、ドングリもたくさん拾え、形もドングリらしい形をしています。水にさらすなど、あく抜きをしてクッキーにしたらいかが。

9月頃、まだ若いドングリが葉の付いた枝ごと林の中にたくさん落ちています。いつぞやの台風のせいかな？ と思つてよく見ると、切り口がすべて平らになっていて、風で折れたものではありません。一体誰がこんなイタズラを？ 実は、犯人は1センチほどの虫、ハイイロチョッキリ（右上の虫です）のしわざです。

ゾウムシやオトシブミの仲間で、ドングリに卵を産んでからその枝を切り落としてしまうのです。帽子（殻斗）といいますが、をとってみると、卵を産み付けた穴が見つかります。



クヌギ

樹皮がゴジラの肌みたいに黒くゴツゴツして、トゲトゲした細長い葉の木は、クヌギです。樹液が多くてカブトムシが一番とれる木といえは分かりますよね。まあ、大きい大きなドングリがでます。「ドングリまなこ」のドングリって絶対これですよ。

スダジイ

天覧山の中段にはスダジイの林があります。普通のドングリのような形はしていませんが、煎ると甘みが増しておいしく食べられます。Hさんのおやつでもありました。



俳句でハイク



今回も、茫洋とした人柄が好評の自由の森学園講師山口雄二先生に同行をお願いしました。用意した五つの俳句に沿って、難しいことは言わずに、とにかく表現してみようという気楽な句会です。参加者からは、「数え切れないくらいにきている場所が、違つて見えてきた」「的確に、端的に、感じたことを表現する言葉を探す行為から、思いがけない自分を発見する」「見知った山が新鮮に感じられる」「同じ場所においても、詠まれた句から自分との捉え方の違いを知ることができ、面白い」などなど、日頃使うことの無い感覚を呼び覚まされた体験が多く語られました。

*

講評会で票の入った中から、それぞれ自分で選んでいただいた一句です。
守る会会員 林 伸子

お題

つゆ

夏近し 表わら越しの 光かな (光源)

雨あがり

湿気を切り裂き クロアゲハ (うじん原人)
つゆ晴れ間 読経始まる 能仁寺 (快歩)

お題

はな

トラノオに

似せてリョウブの花垂る (葉風)

白い小犬

あじさいの道 はしやぎ回る (隅世)

お題

いし

それぞれが 小さき石に (野行き)

ただ静か 経にたわむる 中空の石 (もの忘れ)

お題

はなからもの

日常も

ハイクで視ると 別世界 (京歌)

あれも愛 生きているから これも愛 (散歩)

お題

みね

振り向けば 雲間にかすむ 峯の並み (里彦)

あれが富士 嶺差す先に 雨ツバメ (敏月)

ほとけどうの里 東やっ田の丸太小屋づくり



諏訪沢上流のほとけどうの里で湿地保全作業を始めて、六年目の秋を迎えました。

ここで昨年から続けてきた間伐材を利用した丸太小屋作りの、最後の作業である土壁作りを終えることができました。休耕田の土と稲ワラを混ぜて寝かせたものを素手で丸太の隙間にペタペタ詰め込んでゆく、誰にでも出来る楽しい作業でした。かつての質素な里山の民家は、丸太や土やワラなど、全て身近な素材で作られ、専門家と共に素人も一緒に自給の家作りが行われていた、そんな事が偲ばれる体験でした。今年には雨が多く、沢水は豊かに流れつづけ、ホトケドジョウ、カワニ



ナ、ヤゴなどが水中で遊び、ヤンマ、シオカラ、赤トンボなど湿地の常連が、気持ち良さそうに、風の中、湿地植物の上を飛び交い私達の目を楽しませてくれました。時には向かいの雑木林の中をイノシシのウリ坊が走りぬけたり、上空でオオタカとカラスが競い合う姿も見ることができました。

そんな中、昨年谷津田の稲がイノシシに食い荒らされてしまい、今年は水田を休むことにしたのですが、その休耕田に昨年残っていた落穂から発芽し自然に育った稲穂が数本、実をつけた。その生命力の強さには驚かされた。

守る会会員 早瀬成憲

